

≪研究報告≫

ロールプレイを行った学生の学びの分析と今後の課題 —他者理解, 援助的働きかけを促進する学びをねらいとして—

新田 純子¹⁾, 村田 千代²⁾

要旨: 本研究の目的は, ロールプレイを通しての他者理解, 援助的働きかけを促進する学びをねらいとして, ロールプレイを行った学生のレポートを分析することにより, 学生の学びと今後の課題を検討することである。ロールプレイ後に提出されたA大学看護学部3年次生のレポートの内容を質的データとし, 意味内容の類似性に基づいてカテゴリー化を行った。経験内容のカテゴリーは, 「傾聴」, 「受容」, 「理解の態度」, 「信頼」, 「援助的働きかけ」の5つの概念に集約された。ロールプレイを行った経験からの学びとして5つのカテゴリーが抽出された。学生はロールプレイを通して患者への共感的理解を深め, 【援助的に働きかけた】自身の行為に対して援助的過程として意味づけ, 患者-看護師関係を発展させていた。また, ロールプレイの具体的効果として, 患者理解が深まる, 共感能力が高まる, 対応の幅が広がる, 「今-ここで」の関係が体験できることが示唆された。今後の課題として, 看護行為の根拠を考えられるよう学生間で討議する場の必要性, 経験内容を理論的に整理しフィードバックすることで学びとして深化させる過程を設定するなどの検討が必要である。

キーワード: ロールプレイ, 他者理解, 看護学生

I. はじめに

藤岡ら(2002)は, 看護は「臨床の知」であるとする立場から, 「看護=援助を必要としている人間的状況に身体でかかわり身体で即応する主体的実践」と定義している。そして, 看護教育においては, 講義, 実習, 演習すべてが「臨床の知」の形成を目指すべきであり, 「人間的状況」「身体」「主体」「即応」の意味を経験する場を学生に提供すべきと言及している。

看護教育における経験型学習として, 臨地実習はもとより, 学内演習においても患者の模擬体験やロールプレイなどが取り入れられている。このような経験型学習の効果として, 学生が患者役, 看護師役の両者を経験することにより他者理解や看護援助を促進する学びが拡大・深化すること(平岡ら, 2008)や, ロールプレイにより他者受容の発達を促進すること(鉦鹿, 2009)が報告されている。また, 実習前の学生の

不安として患者とのかかわりに関することが挙げられるが, ロールプレイは学生にとって実習のイメージ化や動機づけとしてその有効性が大きいと言われている(藤岡ら, 2000)。

研究者は成人の慢性期の講義・実習を担当しているが, 慢性疾患の特徴のひとつとして, 患者の生活にとって極めて侵害的であり, 患者にとってその生活習慣の調整は長期にわたって多大な努力を要する(黒田, 2009)ことが挙げられる。そのため, 慢性疾患患者の看護では, 患者の理解と行動変容のための「やる気を引き出す」アプローチが有用とされている。

今回, 成人慢性期実習に先立ち, 患者理解の過程を経験し, その経験から援助的働きかけの促進につながる学びを得ることをねらいとして, 「やる気を引き出す働きかけ」をテーマに患者役と看護師役を経験するロールプレイを試みた。

本研究では, 「やる気を引き出す働きかけ」のロー

1) 弘前学院大学看護学部

連絡先: 新田純子 〒036-8231 弘前市稔町20-7

TEL: 0172-31-7156, E-mail: jnitta@hirogaku-u.ac.jp

2) 弘前学院大学

ルプレイを行った学生のレポートから、ロールプレイによる経験内容と、その経験からの学びを中心に分析することにより、学生の学びと今後の課題について検討することを目的とする。

本研究の意義は、他者理解や看護援助を促進する授業方法の具体的検討に役立つ。また、看護教育の方法について検討するための基礎資料となる。

用語の定義：「経験型学習」とは、直接的経験をすることを学生に与え、その意味づけをする反省的経験までを含める（藤岡ら、2004）。

II. 方法

1. 対象

A大学看護学部3年生のうち、ロールプレイに参加しレポートを提出した学生61名のレポートを分析対象とした。

2. ロールプレイの内容

対象学生の臨床実習経験は、1年生で看護体験実習1単位を、2年生で基礎看護臨床実習2単位を修得している。3年生前期の成人臨床看護論（慢性期）講義の最終回にロールプレイを実施した。

ロールプレイ前に、患者理解の過程を経験し、その経験から援助的働きかけの促進につながる学びへの動機づけを意図して、「やる気を引き出す働きかけ」に有用な理論として、アンドラゴジー、エンパワーメント、自己効力理論について解説した。解説の内容は、成人患者への「やる気を引き出す働きかけ」の方向性として、患者自身が自分にはできるという自信を持ち、自ら決断するような方向へ持っていくことが大切であり、「傾聴」、「対話」、「行動」の段階を踏み、患者自身が問題に気づき、問題解決の方法を検討し、具体的な問題解決の行動をとることができるような働きかけが有効であることに焦点を置いた。

ロールプレイで「やる気を引き出す働きかけ」を行う事例として以下の2例のうちいずれかを自由選択とし、患者役、看護師役の両方を、それぞれ10分ずつで経験してもらった。

例1. 健康のため、何度か禁煙にトライして挫折を繰り返しているが、禁煙プログラムへの参加に乗り気でないAさん役と、やる気を引き出す働きかけをする看護師役C。

例2. 血糖コントロールのため、何度かダイエットにトライしているが、ダイエットプログラムへの参加に乗り気でないBさん役と、やる気を引き出す働きかけをする看護師役D。

ロールプレイ終了後にレポートに記載する項目は、以下の5項目とした。

(1) 患者役をしてみて①どのような時、話しやすく感じたか、話しにくかったか。②看護師役の方は、自分の話を理解しようとしてくれていたか、いなかったか。どうしてそう思うか。(2) 看護師役をしてみて、③どんなことに気をつけて聴いたか。④相手の話を十分理解できたと思うか。それはどうしてか。⑤「やる気を引き出す働きかけ」をやってみての感想。

3. データ収集

学生61名のレポートにおいて上記の①～⑤の5項目の内容を質的データとして収集した。

4. 分析方法

レポート5項目のデータについて、項目ごとに1つの意味内容を含む文節を1記録単位のコードとして抽出した。コードの抽出に際して、学生が記述している言葉をできる限りそのまま使うよう留意した。そのコードの意味内容の類似性に基づいて分類してサブカテゴリー名をつけた。次に、サブカテゴリーの意味内容の類似性に基づいて分類してサブカテゴリーの上位概念であるカテゴリー名をつけた。カテゴリー化と分析結果の妥当性は本研究者間で協議し合意したことをもって確保した。本研究者の看護教育・研究経験年数は5年以上である。

5. 倫理的配慮

成人臨床看護論（慢性期）の科目の成績評価が終了し結果を通知した後、対象学生が集合する機会に協力を依頼した。対象学生に対して研究目的・方法・倫理的配慮（研究協力への任意性・対象者のプライバシーの保護・研究協力の撤回の自由の確保の具体的方法と授業や成績に不利益が生じないこと）および、ロールプレイ後に学生が提出したレポートを分析対象とすることについて口頭および書面にて説明し、回収箱への同意書の回収により同意を得た。なお、本研究は、研究計画書の段階で弘前学院大学倫理審査委員会の審査を受け承認された。

Ⅲ. 結 果

対象者61名中50名に依頼し、48名の同意書が回収された（回収率96.0%）、有効回答数は100%であった。表1に「質問項目別のデータのカテゴリーとコード」を、表2に「患者役および看護師役の記述から抽出されたカテゴリーと経験内容の概念」を、表3に「やる気を引き出す働きかけのロールプレイをやってみての感想から抽出されたカテゴリーと内容別分類」を示す。以下、カテゴリーは【 】,サブカテゴリーは〔 〕で表記する。

1. 患者役をしての記述から抽出されたカテゴリー（表1）

患者役をして、話しやすく感じた時の記述内容を分析した結果、45のコード、18のサブカテゴリーが抽出され、【関心を寄せてくれた】、【尊重してくれた】、【理解的態度を示してくれた】、【援助的に働きかけてくれた】の4つのカテゴリーに分類された。

患者役をして、話しにくく感じた時の記述内容を分析した結果、11のコード、8つのサブカテゴリーが抽出され、【話しにくい対応をされた】と【尊重されなかった】の2つのカテゴリーに分類された。

患者役をして、看護師役が理解しようとしてくれていたと思った理由の記述内容を分析した結果、50のコード、15のサブカテゴリーが抽出され、【関心を寄せてくれた】、【尊重してくれた】、【受容してくれた】、【理解的態度を示してくれた】、【援助的に働きかけてくれた】の5つのカテゴリーに分類された。

看護師役が理解してくれていないと思った理由の記述はなかった。

2. 看護師役をしての記述から抽出されたカテゴリー（表1）

看護師役をして、何に気をつけて聴いたかの記述内容を分析した結果、54のコード、11のサブカテゴリーが抽出され、【相手に関心を寄せる】、【相手を受容する】、【相手に理解的態度を示す】、【援助的に働きかける】の4つのカテゴリーに分類された。

看護師役をして、相手の話を理解できたと思った理由の記述内容を分析した結果、32のコード、15のサブカテゴリーが抽出され、【相手に関心を寄せた】、【相

手を尊重した】、【相手に理解的態度を示した】、【相手が信頼して応答してくれた】、【相手に援助的に働きかけた】の5つのカテゴリーに分類された。

看護師役をして、相手の話を十分理解できなかったと思った理由の記述内容を分析した結果、8つのコード、5つのサブカテゴリーが抽出され、【相手を尊重しなかった】、【相手に共感できなかった】、【援助的働きかけができなかった】の3つのカテゴリーに分類された。

3. 患者役および看護師役をしての記述から抽出されたカテゴリーと経験内容の概念（表2）

患者役および看護師役をしての記述を分析した結果、55のコード、19のサブカテゴリーが抽出され、【傾聴・理解的態度の難しさの実感】、【やる気を引き出す働きかけの難しさの実感】、【傾聴・理解的態度の大切さ】、【信頼関係構築の意味】、【やる気を引き出す効果的コミュニケーション技術】、【やる気を引き出す働きかけの要素】、【やる気を引き出す対応の幅の広がり】の7つのカテゴリーに分類された。さらに、この7つのカテゴリーは、「傾聴」、「受容」、「理解的態度」、「信頼」、「援助的働きかけ」の5つの概念に集約された。

4. 「やる気を引き出す働きかけ」のロールプレイをやってみての感想から抽出されたカテゴリーと内容別分類（表3）

「やる気を引き出す働きかけ」をやってみての感想のカテゴリーとして、【傾聴・共感的理解の難しさの実感】、【やる気を引き出す働きかけの難しさの実感】、【傾聴・共感的理解の大切さ】、【信頼関係構築の意味】、【やる気を引き出す効果的コミュニケーション技術】、【やる気を引き出す働きかけの要素】、【対応の幅の広がり】の7つが抽出された。この7カテゴリーの前者3カテゴリーは経験内容、後者4カテゴリーは学びの内容として分類された。

Ⅳ. 考 察

本考察では、「やる気を引き出す働きかけ」のロールプレイを行った学生のレポートの分析結果に基づき、ロールプレイによる経験内容と学びを中心に考察し、今後の課題について検討した。

1. ロールプレイによる経験内容

患者役, 看護師役をとしての記述から抽出されたカテゴリが5つの概念に集約されたことから, 学生の経験内容はこれらの5つの概念に対応するものと考えられる。

患者-看護師関係は, 患者が看護師の援助を受けて問題解決に向かい自分で問題に対処できるようになる援助的過程を含む関係である。この患者-看護師関係を発展させていくには患者理解が必要であり, 患者理解を深める方法は分析的・解釈的理解と共感的理解の二つの方向性がある。共感的理解では, 看護師が“今-ここにいる”患者の感情に理解を寄せる(川野, 2003)。ロールプレイにより患者理解の過程を経験することを通して期待される効果のひとつは, この共感的理解が深まることである。

本研究では, 相手(看護師役)が理解しようとしてくれていると思う理由のカテゴリとして【関心を寄せてくれた】, 【尊重してくれた】, 【受容してくれた】, 【理解的態度を示してくれた】が抽出された。また, 相手(患者役)の話を理解できたと思う理由のカテゴリとして, 【相手に関心を寄せた】, 【相手を尊重した】, 【相手に理解的態度を示した】が抽出された。双方が理由に挙げるカテゴリに共通する概念は「傾聴」, 「理解的態度」, 「援助的働きかけ」であった。このことから, 学生は患者の立場, 看護師の立場でそれぞれに共通する「傾聴」, 「理解的態度」, 「援助的働きかけ」を経験していたと考えられる。共感的理解では, 相手の感情そのものだけを聴くのではなく, その感情を生み出すに至った事実に注目しながら理解を進める(川野, 2003)。その結果, 看護師役の学生は患者役の学生と類似した感情になり相手に気持ちを傾け, 他の例を情報提供したり, 同じ経験を自己開示したり, 一緒に考えたりと【援助的に働きかけた】と考えられる。

これらのことから, 学生はロールプレイで患者理解の過程を経験することを通して患者に対する共感的理解を深め, 【援助的に働きかけた】自身の行為に対して援助的過程と意味づけ, 患者-看護師関係を発展させていたと考えられる。

2. ロールプレイによる経験からの学び

本ロールプレイの「やる気を引き出す働きかけ」をやってみての感想から抽出されたカテゴリの内容から, 学生は, ロールプレイによる経験から, 【傾聴・

理解的態度の難しさの実感】, 【やる気を引き出す働きかけの難しさの実感】をしていた。そして, 【傾聴・共感的理解の大切さ】, 【信頼関係構築の意味】, 【やる気を引き出す効果的コミュニケーション技術】, 【やる気を引き出す働きかけの要素】, 【やる気を引き出す対応の幅の広がり】を学んでいた。

ロールプレイによる経験内容で前述したように, 学生は, ロールプレイを通して患者に対する共感的理解を深め, 患者-看護師関係を発展させていたと考えられる。川野(2003)は, この患者-看護師関係を発展させる8つの鍵概念として, 「信頼」, 「共感」, 「ケアリング」, 「相互性」, 「自己開示」, 「受容」, 「自己理解」, 「転移」を挙げている。本研究では, まず, 患者-看護師関係に関する学生の学びについて得られた結果に基づき, この8つの鍵概念に対応させて考察する。次に, 援助的働きかけの促進に関する学びについて, ロールプレイによる経験から得られた学びの内容のカテゴリに基づいて考察する。

1) 患者-看護師関係を発展させる鍵概念に対応する学び

(1) 「信頼」に対応する学び

患者-看護師関係では, 依頼をした時に心からの手助けをしてくれるという態度を感じ取れると, 看護師に信頼の感情を抱くことができる。そして, 患者-看護師関係の第1段階で信頼関係が築けないとその後の関係の発展は困難となる(川野, 2003)。

本研究では, 「信頼」の鍵概念に対応すると考えられるカテゴリとして, 学びの内容では【信頼関係構築の意味】が, 相手の話を理解できた理由では【相手が信頼して応答してくれた】が抽出された。「信頼」は, 相手の言動が自分に響き相手に心を寄せることができるという相互の関係性を指す(川野, 2003)。コミュニケーションは患者-看護師関係を発展させる基本技術であるが, 眼差しや表情などのメタメッセージによる伝達はメタコミュニケーションのひとつと言われ, 人間関係のありよう(脈絡)を把握するのに役立つ。ロールプレイを通して, 患者役の学生は, [目を見てくれた], [表情をつけて聴いてくれた], [聴こうとしてくれた]などのメタメッセージを受け取っていた。そして, 患者役の学生は看護師役の学生が役割を演じているだけでなく, “今-ここにいる”自分の感情を真剣に理解しようとしてくれていると感じ, 信頼して[気

持ちや感情を表出した]、[助言を求めた]などの応答をしたと推測される。つまり、患者役と看護師役の学生は相互に「信頼」関係を経験していたと考えられる。

これらのことから、学生は相手が応答してくれた事実を患者-看護師関係の第1段階である「信頼関係を築けた」結果として捉え、[感情表出を促す信頼関係構築]がその後の援助関係発展への重要な要因として意味づけて学んでいたと考えられる。

(2) 「ケアリング」, 「共感」に対応する学び

ケアの本質は、あくなき関心を相手に向けることであり、ケアリングとは、相手をケアし関心を寄せることである(川野, 2003)。Valle, S.K.は、共感とは、患者がそのように理解している内容を表現している患者の感情と、その感情が生じる原因に共鳴する能力であると定義している(川野, 2003)。

「やる気を引き出す働きかけ」を実践するためには、看護師は積極的に相手に関わる姿勢で聴く態度が求められ、これを積極的傾聴技法という(川野, 2003)。つまり、単に聴くだけでなく、相手に関心を寄せ相手の感情に共感する能力が求められる。

本研究では、「ケアリング」, 「共感」の鍵概念に対応すると考えられるカテゴリーとして、学びの内容では【傾聴・共感的理解の大切さ】が、何に気をつけて聴いたかでは【相手に関心を寄せる】、【相手を尊重する】、【相手に理解の態度を示す】が抽出された。このことから、看護師役の学生は、意図的に[あいづちを打つ]、[繰り返しの応答をする]といった積極的傾聴法を用いていたことが推測された。さらに、相手の話を理解できたと思う理由のカテゴリーとして、【相手に関心を寄せた】、【相手を尊重した】、【相手に理解的態度を示した】が抽出された。このことから、看護師役の学生はロールプレイを通して【相手に関心を寄せた】、【相手を尊重した】、【相手に理解的態度を示した】という経験をした事実を、今-ここにいる患者の感情に共感し理解した結果として捉え、【傾聴・共感的理解の大切さ】を学んだと考えられる。

(3) 「受容」に関する学び

受容とは、相手があるがままに受け入れることである。このような他者受容ができるようになるには自己受容ができなくてはならない(川野, 2003)。

本研究では、理解しようとしてくれていると思った

理由として【受容してくれた】が、何に気をつけて聴いたかのカテゴリーとして【受容する】が、「受容」に対応すると考えられるカテゴリーとしてそれぞれ抽出された。しかし、ロールプレイによる経験からの学びの内容として「受容」に対応したカテゴリーは抽出されなかった。これらのことから、患者役と看護師役の学生は相互に「受容」を経験しているが、「受容」の効果に関する学びの認識は低かったことが推測された。患者-看護師関係を発展させる鍵概念としての「受容」の効果について、学びへの動機付けを高める必要がある。

(4) 「自己開示」に対応する学び

自分自身の態度や感情、信念をありのままに表現することが自己開示である。患者-看護師間では、看護師の適切な自己開示は患者にとってのロールモデルとなり、患者は自己開示に対する安全を感じ、また安らぎを感じ信頼関係を強める(川野, 2003)。

本研究では、患者役をしての記述から、【援助的に働きかけてくれた】のサブカテゴリーとして「自己開示」に対応すると考えられる[経験を自己開示してくれた]が抽出された。一方、看護師役をしての記述からは「自己開示」に対応すると考えられるサブカテゴリーは抽出されなかった。また、ロールプレイによる経験からの学びの内容としても「自己開示」に対応すると考えられるサブカテゴリーは抽出されなかった。これらのことから、学生は、自己開示されたことの効果に対する認識は高いが自己開示したことの効果に対する認識は低かったため、「自己開示」の効果に関する学びの認識も低かったことが推測された。患者-看護師関係を発展させる鍵概念としての「自己開示」の効果について、学びへの動機付けを高める必要がある。

(5) 「自己理解」に対応する学び

看護師の持つ先入観は患者理解や患者-看護師関係に影響する。そのため、看護師は自分と患者との関係、患者に共感できているかなど客観的に理解し、看護を実践する基盤として自己理解を深めておくことが求められる(川野, 2003)。この自己理解を深めるには「客観的に事実から学ぶ」姿勢が重要な要素となる。

本研究では、相手の話を理解できなかったと思う理由のカテゴリーとして【相手に共感できなかった】が抽出された。また、相手の話を理解できたと思う理由

のカテゴリーとして【相手が信頼して応答してくれた】が抽出され、そのサブカテゴリーとして[気持ちや感情を表出してくれた]、[意見交換できた]、[助言を求めてくれた]などが抽出された。これらのことから、学生は、サブカテゴリーに抽出された客観的事実を経験することによって、自分と患者が信頼に基づく援助関係にあると評価していたことが推測された。

一方、「自己理解」に対応するカテゴリーは学びのカテゴリーに抽出されなかった。このことから、学生は客観的事実から自分と相手との関係が援助的関係に発展したことに気づいているが、その関係性への気づきが自己理解を深めることにつながることに對する認識が低かったことが推測された。患者-看護師関係を発展させる鍵概念としての「自己理解」の効果について、学びへの動機付けを高める必要がある。

(6) 「相互性」, 「転移」に対応する学び

人は相互依存的な存在であり、この相互性は患者-看護師間の人間関係に大きく影響する(岡堂, 2000)。また、患者-看護師関係における「転移」は、患者が看護師を尊敬し、愛する対象として捉える「陽性転移」と、憎み、攻撃の対象として捉える「陰性転移」の2つに大別されるが、看護師からの逆転移が起こることもある(川野, 2003)。このような相互に生じる感情に気づきながら患者-看護師関係を発展させていくためには、自己理解を深める必要がある。

本研究では、「相互性」や「転移」に対応するものは、経験内容、学びのいずれについてもカテゴリーに抽出されなかった。今回のロールプレイでは、患者役と看護師役の援助的役割が設定されており、患者役にとって看護師役は援助してくれる存在、看護師役にとって患者役は援助を受けてくれる存在であることは共通合意となっていた。そのため、関係性が保証されており、お互いの存在が脅威となったり相手に否定的感情を持たれる心配が少ないというロールプレイの設定上の限界として、「相互性」や「転移」に関する状況が生じにくかったと考えられる。

2) 援助的働きかけの促進に関する学び

患者理解の過程の経験から援助的働きかけの促進につながる学びへの動機づけを意図して、ロールプレイ前に、「やる気を引き出す働きかけ」に有用な理論として、アンドラゴジー、エンパワーメント、自己効力

理論について解説した。

本研究では、ロールプレイによる経験からの学びの内容のカテゴリーとして、【傾聴・理解的態度の大切さ】、【やる気を引き出す効果的コミュニケーション技術】、【やる気を引き出す働きかけの要素】、【やる気を引き出す対応の幅の広がり】が抽出された。また、患者役、看護師役をとしての記述から抽出されたカテゴリーは、5つの概念「傾聴」、「受容」、「理解的態度」、「信頼」、「援助的働きかけ」に集約された。

これらのことから、学生は、ロールプレイを通して、患者理解を深めて患者-看護師関係を発展させる概念を経験的に学んでいたと考えられる。さらに、その経験を振り返ることによりコミュニケーション技術やエンパワーメント、自己効力理論に関連して経験した内容を理論的に整理し意味づけをして、看護援助を促進する技術として学んでいたと考えられる。

3. ロールプレイの具体的効果と今後の課題

川野(2003)は、ロールプレイの具体的効果として、「患者理解が深められる」、「共感能力が高まる」、「対応の幅が広がる」、「根拠が考えられる」、「学習者の集団凝集性が高まり“今-ここで”の関係が体験できる」の5つを挙げている。

本研究では、【傾聴・理解的態度の大切さ】、【信頼関係構築の意味】、【やる気を引き出す話し方】、【やる気を引き出す働きかけの要素】、【やる気を引き出す対応の幅の広がり】の5つが学びのカテゴリーとして抽出された。ロールプレイによる経験内容で前述したように、学生は、ロールプレイを通して、コミュニケーション技術を活用して患者に対する共感的理解を深め、患者-看護師関係を援助的関係に発展させ、援助的働きかけを経験していたことが推測された。また、[目を見てくれた]、[聴こうとしてくれた]といったメタメッセージを通して役割を演じているだけでなく真剣に理解しようとしてくれていると感じ取り信頼の感情を抱くといった“今-ここで”の関係を経験していたことが推測された。これらのことから、ロールプレイの具体的効果として、「患者理解が深まる」「共感能力が高まる」「対応の幅が広がる」「“今-ここで”の関係を体験できる」に対応する効果が示唆された。これは、ロールプレイ終了後に学生は各自のレポートによる振り返りを行ったことで、患者理解の経験に対して意味づけし学びを整理できたことによるものと考え

られる。

一方、看護行為の根拠についての学びは抽出されなかった。その要因として、ロールプレイの繰り返しが多かったこと、参加者間の討議が多かったことが考えられる。ロールプレイ終了後の参加者間の討議を持つことによって、学生は自分以外の学生が、どんな考えに基づいて役割を演じたか、どのような考えでその行為を行ったのかを知る機会を持てる。また、ロールプレイの繰り返しによって、複数の看護師の考え方を学ぶことで、看護師の看護行為とその根拠となる考え方が結び付き、看護行為の根拠として患者のどこに焦点を当てたらよいかを学ぶ機会となる（川野，2003）。ロールプレイ終了後の参加者間の討議の機会を設けること、ロールプレイの繰り返しの回数を増やすことなどロールプレイの方法を改善し、「根拠が考えられる」についての学びの強化を検討する必要がある。

また、患者-看護師関係発展の鍵概念のうち、経験内容に抽出されたが経験からの学びとして抽出されなかった「自己開示」、「受容」、「自己理解」の3つの概念の効果については、それぞれの概念に関連する経験について理論的な意味づけをして学生にフィードバックすることで、患者-看護師関係を発展させる概念の学びとして深化させる必要がある。

V. 結 論

1. ロールプレイによる学生の経験内容は、「傾聴」、「受容」、「理解的態度」、「信頼」、「援助的働きかけ」の5つの概念に集約された。
2. ロールプレイを経験して得られた援助的働きかけの促進に関する学生の学びとして、【傾聴・共感的理解の大切さ】、【信頼関係構築の意味】、【やる気を引き出す効果的コミュニケーション技術】、【やる気を引き出す働きかけの要素】、【対応の幅の広がり】の5つのカテゴリーが抽出された。
3. 患者-看護師関係を発展させる8つの鍵概念のうち、「信頼」、「共感」、「ケアリング」については、ロールプレイでの自らの経験に意味づけし患者-看護師関係を発展させる概念として学びを深めていた。一方、経験内容に抽出されたが経験からの学びとして抽出されなかった「自己開示」、「受容」、「自己理解」については、患者-看護師関係発展の鍵概念としての学びへの動機付けを高める必要がある。

4. 患者-看護師関係を発展させる8つの鍵概念のうち3つの概念について、経験内容には抽出されたが経験からの学びとして抽出されなかった。これに対する課題として、それぞれの概念に関連する経験について理論的な意味づけをして学生にフィードバックすることにより学びとして深化させる必要がある。また、今回、ロールプレイの具体的効果として「根拠が考えられる」に対応する効果については検証できなかった。これに対する課題として、ロールプレイ終了後の参加者間の討議の場を設ける、ロールプレイの繰り返しの回数を増やすなどロールプレイの方法を改善して、その効果の強化について検討する必要がある。
5. ロールプレイの具体的効果として、「患者理解が深まる」、「共感能力が高まる」、「対応の幅が広がる」、「“今-ここで”の関係を体験できる」に対応する効果が示唆された。

VI. 本研究の限界と今後の課題

ロールプレイングの学習効果はクラスの構成員間の関係性に依存することが推測される。本研究で得られた結果は、単年度1クラスに関するデータに基づくものであり、個別の事例とも言えることから、結果の一般化には限界がある。今後、経年的に同学年クラスを対象とした研究結果を蓄積して比較検討するなどにより結果の一般化について検証するとともに、効果的な演習方法を検討していく必要がある。

謝 辞

本研究にご協力いただきました学生の皆様に心より感謝いたします。

文 献

- 1) 藤岡寛治, 堀喜久子編 (2002), 看護教育講座3 看護教育の方法 (第1版), 10, 医学書院, 東京
- 2) 藤岡寛治, 野村明美編 (2000), わかる授業をつくる看護教育技法3 シミュレーション・体験学習 (第1版), 14, 医学書院, 東京
- 3) 藤岡寛治, 安酸史子, 村島さい子, 他 (2004), 学生とともに創る臨床実習指導ワークブック (第2版), 26, 医学書院, 東京

- 4) 平岡葉子, 北村直子, 古川直美, 他 (2008), 口腔ケア体験型学習による学生の学び, 日本看護学教育学会第18回学術集会講演集, 136
- 5) 川野雅資編著 (2003), 患者-看護婦関係とロールプレイング (初版第4刷), 21-77, 日本看護協会出版会, 東京
- 6) 黒田裕子編 (2009), 成人看護学 (初版), 東京, 108, 医学書院.
- 7) 岡堂哲雄編 (2000), ナースのための心理学4人間関係論入門 (初版第1冊), 54-59, 金子書房, 東京
- 8) 鉦鹿健吉 (2009), 心理学関連の体験学習によって学生の受容力を伸ばす試み—他者理解と受容力の向上を目指す基礎教養科目での実践—, 国立看護大学校紀要, 8(1), 49-54.

表1 質問項目別のデータの категорияとコード

	カテゴリー (4件) ・サブカテゴリー (18件)	コード (45件)
患者役をしてみて、どのような時、話しやすく感じたか	関心を寄せてくれた ・あいづちを打ってくれた ・繰り返しの応答をしてくれた ・目をみてくれた ・笑顔をみせてくれた ・聞いてくれていると感じた	・「うん、うん」と積極的に聞く姿勢がある時 ・うなずいてくれた時 (他4) ・あいづちを打っている時 ・自分が話したことを繰り返して言ってくれた時 ・会話が続いていたので ・目を見てくれた時 (他1) ・ときどき笑顔 ・話を聞いてくれていると感じた時 (他3)
	尊重してくれた ・話を遮らない ・最後まで話を聞いてくれた ・否定しないで聞いてくれた ・悩みを聞いてくれた	・自分の話を遮らない ・最後まで話を聞いてくれた (他3) ・否定せずに聞いてくれた時 (他3), 言いたいことがたくさん出てきた ・自分の悩みを話している時 ・友達のように (威圧感がなく) フレンドリーに聞いてくれた時
	理解的態度を示してくれた ・共感してくれた ・質問してくれた ・気持ちを察してくれた ・理解してくれた	・「わかるー」など共感してくれた時 (他11) ・いろんな質問をしてくる時 (他1) ・「～の時, ○○なの?」と言われると話を進めやすかった ・いま思っていることを聞いてくれた時 ・自分の気持ちを察してくれるような話し方の時 ・自分の過去のリバウンドを理解してくれていると感じた時
	援助的に働きかけてくれた ・他例を情報提供してくれた ・同経験を自己開示してくれた ・一緒に考えようと言われた ・話しやすい内容を話している時 ・頑張りを褒めてくれた	・自分以外の例も出してきて少し親近感をその例に感じた時 ・自分もそうでしたと同意見を述べてくれた時 ・「一緒に考えてみましょう」と言われた時 ・喫煙するとこれがいい, あれがいいなどを話している時は楽に話せた ・頑張ったことをほめられた時
時患者役をしにくかったか、どのような	カテゴリー (2件) ・サブカテゴリー (8件)	コード (11件)
	尊重されなかった ・責められた ・否定された ・強制された ・無効な助言をされた	・「なんでやめられないか」と問われると「ウッ」とくる。すいませんでしたという感じ ・自分の行動を「それはだめですよ」と否定された時 ・「でも」と言われたり ・なんか無理やりさせようという感じがした ・ちょっとずつやってみたら大丈夫と言われても自分では大丈夫と思えなかった
	話しにくい対応 ・話しにくい話題 ・執拗なあいづち ・意味のない沈黙 ・関心のない態度	・ダイエットを続けられない理由は話しづらかった ・禁煙の話というだけで話しにくい ・悩んでいることを言い出す時どう言い出しているかわからなかった ・うん、うんと聞かれると逆に次に何を話しているかわからず話しにくかった ・話し始め何も言われないと「話してもいいのかな」と感じ話せなかった ・心のない「わかりますようー」は話したくなくなる
	カテゴリー (5件) ・サブカテゴリー (15件)	コード (50件)
	関心を寄せてくれた ・あいづちを打ってくれた ・繰り返しの応答をしてくれた ・目を見てくれた ・表情をつけて聴いてくれた ・聞こうとしてくれた	・あいづちを打ってくれたから (他1) ・うなずいてくれていたから (他4) ・話したことに對してていねいに話を返してくれたから ・目を見てくれていたから (他3) ・表情をつけたりして聞いてくれていたから (他1)
	尊重してくれた ・話を遮らず聴いてくれた ・最後まで聴いてくれた	・話を遮らなかつたから (他1) ・否定せず話を聞いてくれたから (他5)

<p>患者役をしてみて、看護師役の人を自分と話</p>	<p>受容してくれた ・受容され楽になった</p> <p>理解的態度を示してくれた ・質問してくれた ・理解しようとしてくれた ・共感してくれた</p> <p>援助的に働きかけてくれた ・経験を自己開示してくれた ・効果的な助言をしてくれた ・効果的な激励をしてくれた ・頑張りを認めてくれた</p>	<p>・「～の場合もあるしね」と言って、わかってくれて、自分を責めた気持ちが楽になった</p> <p>・質問してくれ、自分に興味がある（知りたがってる）と感じたから（他2） ・「気持ちを聞こう」という一生懸命さが伝わったから（他4） ・理解しようとしてくれていることが言葉にも現れていた。 ・理解してくれようとしているが、やる気になるまではいかず難しいと感じた ・共感してくれていた ・同意してくれたから ・「わかる」みたいな反応をしてくれたから</p> <p>・自分のエピソードを話してくれた（他1） ・一緒に考えてくれたから ・なぜ失敗したのか周りの環境をいろいろ知ろうとしていて、何が原因かを教えてくれたから ・さまざまな例を出して方向性を持たせてくれたから（他1） ・いままでやった方法でできなかったことを考え新しい方法を提案してくれた ・アドバイスしてくれたから（他4） ・どうしたらやめられるか、やめなければいけないか説得力があり納得できた。 ・励ましてくれたから（他1） ・失敗しても頑張りを認めてくれたから</p>
<p>看護師役をしてみて、どんなことに気をつけて聴いていたか</p>	<p>カテゴリー（4件） ・サブカテゴリー（11件）</p> <p>相手に関心を寄せる ・あいづちをうつ ・目をみる ・話しやすい配慮をする</p> <p>相手を受容する ・相手を受容する</p> <p>相手に理解的態度を示す ・相手の気持ちを理解する努力をする ・共感する</p> <p>援助的に働きかける ・問題を探る ・失敗の原因を探る ・動機を探る ・解決方法を探る ・できたことを褒める</p>	<p>コード（54件）</p> <p>・うなずく、あいづちを打つようにした（他2） ・目を見て話を聞いた ・どう言ったら話しやすいか ・患者が思っていることを全部出してもらうように ・患者の気持ちを傷つけて心を閉ざしてしまわないように ・気にしていることに触れないように</p> <p>・受容の姿勢（他3）</p> <p>・その人の今の気持ちを理解しながら（他3） ・どうにかして禁煙のつらさを理解したいと思った ・患者が一番聞いてほしいことは何なのか ・共感する（他2） ・自分の経験で似たようなことを探して気持ちがわかるようにした</p> <p>・何が問題か（他2） ・プログラムを行うことについての悩み ・失敗の原因（他1）、 ・過去どうだったか ・どのくらい失敗したか、どのようなことをやってきたのか（他1） ・苦痛はあったか ・今までの（ダイエットへの）印象 ・その失敗からどんなことを感じているのか（他1） ・どうしてやめられないのか（他5）、 ・対処法がわからないのか、気持ちの面か ・どんなことを考えて方法を選んだのか ・何が乗り気にならない原因なのか ・どのくらいやる気の意味が強いのか（他1） ・どうして喫煙を始めて、今どういう状態なのか ・どんな時、喫煙するのか ・患者が禁煙、喫煙についてどう思っているか（他3） ・さらにその期間を延ばしてみないかという話し方で関わった ・1か月は禁煙できたことを強調してほめた。</p>
<p>十分理解できたと思う理由</p>	<p>カテゴリー（5件） ・サブカテゴリー（15件）</p> <p>相手に関心を寄せた ・ちゃんと聞いた ・相手に向き合った</p> <p>相手を尊重した ・話を遮らない</p> <p>相手に理解的態度を示した ・質問した ・理解しようと努めた ・経験や気持ちに共感できた</p>	<p>コード（32件）</p> <p>・ちゃんと聞くように注意した ・聞きたいことが聞けた ・熱いハートで相手の気持ちに真正面に向き合ったから</p> <p>・話を遮断しなかったから ・相手を否定しない言葉を考えすぎて話が進まなかった</p> <p>・理解するために質問をした ・自分がもしそのような状況に置かれたらどうするか考えながら聞いていたから ・理解しようと努力した ・相手の気持ちになってやめられないつらさを考慮したうえで話を聞いて理解した ・共感できる部分もあったので ・自分にも同じような経験があったから（他2） ・苦しい気持ち（辛さ）とかよくわかるから（他1）</p>

	<p>相手が信頼して応答してくれた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや感情を表出してくれた ・行動すると言葉にしてくれた ・意見交換できた ・共感を肯定的に受け止めてくれた ・話を聞いてくれていた ・助言に納得してくれた ・助言を求めてくれた 	<ul style="list-style-type: none"> ・いま思っていることを言ってもらったから (他2) ・相手が感情を表出してくれたから ・表情が穏やかになり不安を軽くできたと思うので ・Bさんが伝えようと私にぶつけてきて細かく話してくれたから ・テーマについてしっかり意見交換できたから ・こちらからの返答に対して肯定的だったから ・相手の話に共感したら「そうですね」と言っていたから ・ちゃんと話を聞いてくれていた ・どのようなことに気をつけたらいいか伝えることができ ・患者もそれに納得してくれた ・今後どのようにすればいいかアドバイスを求めていたから
	<p>相手に援助的に働きかけた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原因や対策を一緒に考えた ・助言した 	<ul style="list-style-type: none"> ・「このようなことをすればタバコを止められますかね」などの提案を話しながら一緒に考えることができた ・否定せずに傾聴し何が原因なのかを考え今後どうしたらいいか一緒に考えることができた (他1) ・悩みを聞き否定せずにアドバイスなど行ったから
理由 理解できなかったと思う	<p>カテゴリー (3件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブカテゴリー (5件) 	コード (8件)
	<p>相手を尊重しなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を遮った ・話を否定した ・相手に強制した 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかるー」となって話を遮ってしまい反省した ・患者の考えを否定するような話し方になってしまった ・友達のようにアドバイスをついしてしまい、押し付けになっている感じがした ・ダイエットが必要だと理解はしていても、また失敗してしまうと投げやりになっているように思った
	<p>相手に共感できなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弱気、辛さがわからなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・内心、自分や周りの助けがあるのになんでこんなに弱気なんだと思った ・禁煙のつらさがわからなかったから
	<p>援助的働きかけができなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策を見つけれなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと具体的に話せばよかったのかもしれない ・解決策が見つけられなかった
「やる気を引き出す働きかけ」をやってみての感想	<p>カテゴリー (7件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブカテゴリー (19件) 	コード (55件)
	<p>傾聴・理解的態度の難しさの実感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えたアドバイスの難しさの実感 ・理解的態度を示すことの難しさの実感 ・話を遮らないことの難しさの実感 ・話し方の難しさの実感 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えたアドバイスを考えるのが大変だった ・人が好き好んでやっていることを制限するのは難しいと思った ・人それぞれ考え方が違うので難しいと思った ・指導しなくちゃが頭にあり患者を理解しようとするができず一方通行だった ・途中で口を出しそうになって難しいと思った ・何をどう話せばいいのか分からず反復になってしまいすごく難しいと思った ・どう話をしていいのか悩んだ (他2)
	<p>やる気を引き出す働きかけの難しさの実感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己効力感を高める難しさの実感 ・その人のやる気を引き出す難しさの実感 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうやって自己効力感を高めていいかわからなかった ・「自分にはできる」という自信を持たせるのは難しいと感じた ・(やる気を引き出す)方法がわからず戸惑った ・(やる気を引き出す)方法がわからず戸惑った ・やる気というのはその人自身で出すものだから考えたこともなかったので難しかった ・失敗したことの存在に対してやる気を持ってもらうのは難しい (他1) ・相手の話を理解することはできても、患者のやる気を引き出すのはとても難しいことだと実感した (他12) ・本人がネガティブな気持ちでいる時にやる気を引き出すのは難しかった ・自分にも何とかしなきゃいけないけどなかなかできないことがあるから、「どうやる気をだすか」という方法をもっと自分なりに考えたいと思った。 ・実際にやってみて少し難しく感じた (他2)
	<p>傾聴・理解的態度の大切さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴の大切さ ・理解的態度の大切さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞くことは大切だと思った。 ・話をきちんと聞いてあげること (傾聴) が大切だと思った。(他1) ・患者の悩みや訴えを否定せず傾聴することが大事であると感じた。 ・相手の気持ちを理解した上で働きかけられるようにしたい (他1)。 ・同感すること、傾聴、目を見て、相手のことを考えようとしている意思が伝わるような接し方が大切だと思った。
<p>信頼関係構築の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情表出を促す信頼関係構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を表出させる、表出するというのは信頼感がないとできないと思う。いかに信頼感を築くことが大切だと思った。 	

<p>やる気を引き出す効果的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的な会話の技術 言葉を選ぶ 効果的なあいづちを打つ 褒める 実施段階での具体的方法を話す 	<ul style="list-style-type: none"> 短い会話だけではどんなふう感じてやる気が出せているかわからなかったが、どのような会話をしたらいいのか学べた。 働きかけをするために言葉を考えてやらないといけないと思った 「そっか」とか「そうなんだ」と言われると、他に何か話したいと思えるのかなと感じた。 どのようにしていいかわからなかった。以前に1カ月禁煙できたことをほめてみて、やる気が引き出せたらいいなと思った。 行程（過程？）の実施段階で、小さなきっかけを大事にしてやることを話すといいのかなと思った うまくやる気を引き出せたか不安だったが患者が「がんばってみます」と言ってくれたのでうまくやる気を引き出せたように思う。
<p>やる気を引き出す働きかけの要素</p> <ul style="list-style-type: none"> 本人の目標設定を引き出す 原因・方法への本人の気づきを促す 今後どうするか一緒に考える 	<ul style="list-style-type: none"> 話をしている、やる気を出すには目標が必要なのではないかということが分かった。その目標を引き出すのもなかなか難しいことが分かった。 看護師側から提案しても患者のためにならないと思ったので、患者自身がなぜ失敗したのか、どうすれば成功するのか考えられるように関わっていかねばならないと思った。 まず相手の思いを受け止めるよう努めたが、つい指導的になりそうになったので、（問題を）相手に気付いてもらえるようにしたい。 やる気を引き出すためには、今後どうすればいいのかを一緒に考えあきらめないよう指導することだと感じた。
<p>やる気を引き出す対応の幅の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の人の対応が参考となった 実習での援助に結びつけて演習できた 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の意見も聞き、参考にすることができてよかった 他の人の対応を見ることができて参考になった うまくやる気を引き出すことができなかったので日頃から意識して取り組んでみたい 実習での援助に結びつける演習ができてよかった 実際の患者に接する時、話に詰まりそう

表 2 患者役および看護師役の記述から抽出されたカテゴリーと経験内容の概念

カテゴリー	患者役をしてみての記述から抽出されたカテゴリー	看護師役をしてみての記述から抽出されたカテゴリー	相手の話を理解できたと思う理由	相手の話を理解できなかったと思う理由
経験内容の概念	傾聴	話しやすく感じた時 C 関心を寄せてくれた s あいづちを打ってくれた s 執拗なあいづち s 繰り返しの応答をしてくれた s 意味のない沈黙 s 関心のない態度 s 話しにくい話題 s 聞いてくれていると感じた C 尊重してくれた s 話を遮らない s 最後まで話を聞いてくれた s 否定しないで聞いてくれた s 悩みを聞いてくれた	相手の話を理解できたと思う理由 C 相手に関心を寄せた s 相手に向き合った s ちゃんと聞いた s 話を遮らない s 話を否定した s 相手に強制した	相手の話を理解できなかったと思う理由 C 相手に関心を寄せた s 相手に向き合った s ちゃんと聞いた C 相手を尊重しなかった s 話を遮った s 話を否定した s 相手に強制した
	受容	話しにくい感じた時 C 関心を寄せてくれた s あいづちを打ってくれた s 執拗なあいづち s 繰り返しの応答をしてくれた s 意味のない沈黙 s 関心のない態度 s 話しにくい話題 s 聞いてくれていると感じた C 尊重されなかった s 責められた s 否定された s 強制された s 無効な助言をされた	相手の話を理解できたと思う理由 C 関心を尊重した s 話を遮らない C 相手を尊重しなかった s 話を遮った s 話を否定した s 相手に強制した	相手の話を理解できなかったと思う理由 C 相手に関心を寄せた s 相手に向き合った s ちゃんと聞いた C 相手を尊重しなかった s 話を遮った s 話を否定した s 相手に強制した
	理解的態度	話しやすく感じた時 C 関心を寄せてくれた s あいづちを打ってくれた s 執拗なあいづち s 繰り返しの応答をしてくれた s 意味のない沈黙 s 関心のない態度 s 話しにくい話題 s 聞いてくれていると感じた C 尊重されなかった s 責められた s 否定された s 強制された s 無効な助言をされた	相手の話を理解できたと思う理由 C 相手に理解的態度を示した s 経験や気持ちに共感できた s 質問した s 理解しようとして努めた	相手の話を理解できなかったと思う理由 C 相手に理解的態度を示した s 経験や気持ちに共感できた s 質問した s 理解しようとして努めた
	信頼	話しやすく感じた時 C 関心を寄せてくれた s あいづちを打ってくれた s 執拗なあいづち s 繰り返しの応答をしてくれた s 意味のない沈黙 s 関心のない態度 s 話しにくい話題 s 聞いてくれていると感じた C 尊重されなかった s 責められた s 否定された s 強制された s 無効な助言をされた	相手の話を理解できたと思う理由 C 相手が信頼して応答してくれた s 共感に対し肯定的受止めをしてくれた s 助言に納得してくれた s 話を聞いてくれた s 意見交換できた s 助言を求めてくれた s 行動すると言葉にしてくれた s 気持ちや感情を表出してくれた	相手の話を理解できなかったと思う理由 C 相手が信頼して応答してくれた s 共感に対し肯定的受止めをしてくれた s 助言に納得してくれた s 話を聞いてくれた s 意見交換できた s 助言を求めてくれた s 行動すると言葉にしてくれた s 気持ちや感情を表出してくれた C 援助的働きかけができなかった s 対策を見つけれなかった
	援助的働きかけ	話しやすく感じた時 C 関心を寄せてくれた s あいづちを打ってくれた s 執拗なあいづち s 繰り返しの応答をしてくれた s 意味のない沈黙 s 関心のない態度 s 話しにくい話題 s 聞いてくれていると感じた C 尊重されなかった s 責められた s 否定された s 強制された s 無効な助言をされた	相手の話を理解できたと思う理由 C 援助的に働きかける s 問題を探る s 失敗の原因を探る s 動機を探る s 解決方法を探る s できたことを褒める	相手の話を理解できなかったと思う理由 C 援助的に働きかけた s 助言した s 原因や対策を一緒に考えた s 問題を探る s 失敗の原因を探る s 動機を探る s 解決方法を探る s できたことを褒める

表3 「やる気を引き出す働きかけ」のロールプレイをやってみての感想から抽出されたカテゴリと内容別分類

内容の分類	カテゴリ	サブカテゴリ
実感した内容	傾聴・共感的理解の難しさの実感	話を遮らないことの難しさの実感
		共感的理解の難しさの実感
		話し方の難しさの実感
	やる気を引き出す働きかけの難しさの実感	その人のやる気を引き出す難しさの実感
		自己効力感を高める難しさの実感
		相手の気持ちを考えたアドバイスの難しさの実感
学びの内容	傾聴・共感的理解の大切さ	傾聴の大切さ
		共感的理解の大切さ
	信頼関係構築の意味	感情表出を促す信頼関係構築
	やる気を引き出す効果的コミュニケーション技術	効果的な会話の技術
		言葉を選ぶ
		効果的なあいづちを打つ
		褒める
		実施段階での具体的方法を話す
	やる気を引き出す働きかけの要素	本人の目標設定を引き出す
		原因・方法への本人の気づきを促す
今後どうするか一緒に考える		
やる気を引き出す対応の幅の広がり	他の人の対応が参考となった	
	実習での援助に結びつけて演習できた	

ANALYSIS OF THE LEARNING PROCESS AND FUTURE PROBLEMS OF NURSING STUDENTS WHO PERFORM ROLE-PLAYING: DEVELOPMENT OF TEACHING METHODS THAT PROMOTE STUDENTS' UNDERSTANDING OF OTHERS AND NURSING ASSISTANCE

Junko NITTA¹⁾, Chiyo MURATA²⁾

Abstract: This study examined the learning process and problems of nursing students by analyzing reports from students who performed role-playing in order to develop teaching methods that promote students' understanding of others and nursing assistance.

The contents of reports submitted after the completion of role-playing were analyzed as qualitative data, and categorized based on the similarity of their semantic contents.

What the students had experienced during role-playing was categorized into 5 concepts: attentive listening, acceptance, affirmative attitudes, trust, and assistive commitment. Separately, 5 categories were extracted from student reports of what they had learned from the role-playing experience.

Students deepened their empathetic understanding of patients through role-playing, and developed the patient-nurse relationship into an assistive relationship, thereby developing assistive commitment. As specific effects of role-playing on students, deepening of their understanding of patients, improvement of their ability to empathize, extension of their coping range, and provision of an opportunity to experience the "here & now" of a situation were verified. After role-playing, discussion should be conducted among students to help them further identify justifications for nursing practice. It is necessary for students to organize their experiences into categories, and discussions to facilitate this process of organizing their experiences will deepen the level of learning.

Key words : Experience learning, role-playing, understanding of others, nursing student

1) Faculty of Nursing, Hirosaki Gakuin University
TEL: 0172-31-7156, E-mail: jnitta@hirogaku-u.ac.jp
2) Hirosaki Gakuin University